猿渡っ子　タブレット学習の足跡 No１

5/12　6年生

◎学年集会　第1回「どうする？タブレットの使い方」

子どもたちの学習に定着しつつあるタブレットですが、現状の使い方が本当に学習にふさわしい使い方なのか、教師だけではなく子どもたちからも声を聞くようになりました。そこで、学年集会を開き、6年生のみなさんがタブレットの使い方についてどのような考えをもっているかを意見交換しました。

45分間しかない時間で、総勢24人もの子が学年の前で自分の考えを発表しました。学年全体の前で自分の意見を言うことができたこと、一人一人の意見を拍手で皆が認めて合えたことが大変すばらしいことでした。意見の内容については様々で、「今のルールのままでよい」「頭の体操のようなゲームであればやってもよいのではないか」「手元にあると誘惑に負けるので、指示されたとき以外は保管庫にしまったらどうか」など、自分たちの学習環境のことを踏まえた意見がたくさん出ました。

これから先、今の子どもたちは、タブレットやスマホと共に生きていくことになります。タブレットを使用する際、何がよくて、何がいけないのか、どうすべきかを自分で考え、判断し、行動に移す力が必ず必要になってきます。

学校という集団生活の場で、このようなことを考える力を身に付けていけるよう支援を続けます。このテーマについては今後も話し合いを重ねる予定です。

【学年集会「どうする？タブレットの使い方」の様子】

【校内情報教育部会より】

これまでの情報モラル教育は、「情報機器を扱う際に〇〇しない」等、想定される諸課題を予防、対処するため、子どもの行動制限をする指導が中心でした。情報機器には、予期せぬトラブルもあり、学習で機器を活用しないといった判断をすることもありました。

デジタルネイティブ世代といわれている今の子どもたちは、生まれながらにしてスマホやタブレットなどの情報機器に囲まれています。そんな子どもたちに対するこれからの情報教育は、文部科学省からのGIGAスクール構想にあるように、「積極的な活用」を前提として使い方についてよく考え、正しく判断し、行動に移していく能力を培うことが求められます。使い方に疑問を感じたら、その都度立ち止まり、子どもが自分たちで考え、解決策を話し合い、よりよい使い方を見出すことが大切になってくると思います。

今回の学年集会は、まさにこれからの時代に必要な情報教育です。今後も、子どもたちが主体的に情報機器に向き合っていけるとよいと思います。